

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成31年2月7日(2019.2.7)

【公開番号】特開2016-128818(P2016-128818A)

【公開日】平成28年7月14日(2016.7.14)

【年通号数】公開・登録公報2016-042

【出願番号】特願2016-2574(P2016-2574)

【国際特許分類】

G 01 N 27/30 (2006.01)

G 01 N 27/416 (2006.01)

【F I】

G 01 N 27/30 Z

G 01 N 27/46 3 5 3 Z

G 01 N 27/30 B

【手続補正書】

【提出日】平成30年12月17日(2018.12.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

pHセンサーであって、

(a) 感應電極；

(b) 対極；

(c) 前記感應電極と前記対極の間に位置する電解質層；および

(d) 前記感應電極と前記電解質層との間に位置し、TiO₂、ZnO、WO₃、SnO₂、RuO₂、Ta₂O₅、またはIrO_xで形成された酸化物層を含み、

ここで、前記感應電極は、パラジウム前駆体組成物の熱分解によって形成されたパラジウムからなる、pHセンサー。

【請求項2】

前記電解質層が、前記感應電極および前記対極と物理的に接觸している、請求項1に記載のpHセンサー。

【請求項3】

前記対極が銀および塩化銀を含む、請求項1に記載のpHセンサー。

【請求項4】

前記センサーは少なくとも40mV/pHの感度を有する、請求項1に記載のpHセンサー。

【請求項5】

前記センサーは200秒以下の応答時間を持つ、請求項1に記載のpHセンサー。

【請求項6】

前記センサーは2~12のpH範囲で、少なくとも95%の直線性を有する、請求項1に記載のpHセンサー。

【請求項7】

前記センサーは、前記電解質層の隣で、前記感應電極と前記対極との間に位置する絶縁体をさらに含む、請求項1に記載のpHセンサー。

【請求項8】

p H センサーを含む生物医学的デバイスであって、該 p H センサーが

(a) 感應電極；

(b) 対極；

(c) 前記感應電極と前記対極との間に位置する電解質層；および

(d) 前記感應電極と前記電解質層との間に位置し、TiO₂、ZnO、WO₃、SnO₂、RuO₂、Ta₂O₅、またはIrO_xで形成された酸化物層を含み、

ここで、前記感應電極がパラジウムおよび酸化パラジウムを含むデバイス。

【請求項 9】

前記感應電極が 50 at % を超える PdO を含む、請求項 8 に記載の生物医学的デバイス。